

地域課題の解決に向けた取組

エゾシカ被害対策や林業における低コスト作業等の普及の促進

根釧東部森林管理署

はじめに

当署は我が国最東端に位置する森林管理署です。知床半島の南面側から根室半島までの根室振興局管内1市4町（根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町）を管轄しています。根室振興局管内は、漁業と酪農が基幹産業であり、森林の公益的機能に係る期待はとても大きいです。一方、この管内では、農林水産業に大きな被害をもたらしているエゾシカへの対策が課題となっているほか、市町の林務担当職員が林業知識を効率的に得られる機会を増やしていくことが求められています。これらの課題解決に向けた取り組みについて紹介します。

エゾシカ被害対策の推進

地域の課題の一つであるエゾシカ対策については、「根室市鳥獣被害防止

対策協議会」に参画する一方で、自らも「根室市国有林内エゾシカ対策協議会」を主催し、そこでの情報交換や意見を基に、囲いワナ等を活用して平成26年度から平成29年度までに430頭のエゾシカを捕獲するなど、エゾシカによる農林水産業被害の減少を図っており、引き続き対策に取り組んで行く考えです。



囲いワナによる捕獲状況

今年度からの新たな取組

また、市町においては多くの場合、林業を専門として採用された職員はおらず、林業に関する知

識を持たないまま林務担当となられる職員もいる状況から、今年度からの新たな取り組みとして、地域の林務担当職員の林業知識向上のお手伝いを根室振興局森林室と協力して行うため、準備を進めています。



ハーベスターによる伐倒・造材

具体的には、地域の林務担当職員（特に新任の担当者）の方に当署管内で実施している伐採から造林（地拵え（じごしらえ））までの一貫作業の現場等を活用した現地検討会に参加していただき、高性能林業機械による生産や大型機械による地拵え、コンテナ苗の植栽等の「低コスト作業等」の様

子を見てもらいながら意見交換を行うこと等を通じて林業知識向上を図っていたら、地域の林業に「低コスト作業等」が普及・定着していくように取り組んでいきたいと考えています。

併せて、新しいツール（ドローン、GPS等）の森林管理・経営における活用方法についても、市町の林務担当職員や林業事業者と一緒に勉強会を実施し、意見交換や情報提供等を通じて、地域林業の更なる技術向上に向けて取り組んでいきたいと考えています。



ドローン撮影による風倒被害の把握